

AIは道具か仲間か

～ことばの教師に求められる新しい役割～

講師：山田智久氏 西南学院大学外国語学部 教授

講演概要

【キーワード：キュレーションスキル、エージェンシー、意思決定】

生成AIの登場により、教師の役割をあらためて見つめ直す時期にきています。これまでのICTは、教師の指示にもとづいて動く「道具」にとどまるものでした。しかし生成AIは、まるで自ら考えるかのように、時には教師の判断そのものに代わる存在として、教育の現場に浸透しつつあります。その結果、教師は自らの意思で判断し行動する力（エージェンシー、agency）を発揮しにくくなり、「AIは道具なのか、それとも仲間なのか」という新しい問いが生まれてきているのではないのでしょうか。

本講演では、この問いをことばの教育の視点からとらえ直し、教師に求められる役割がどのように変わっていくのかを考えていきます。具体的には、あふれる情報や技術の中から必要なものを選び取り、学習者に合った形で届ける力「キュレーションスキル（curation skills）」こそが、AI時代のことばの教師にとって欠かせない力ではないか、という提言を試みます。実践事例も紹介しながら、AIと共に歩むことばの教育の可能性について、参加者の皆様と一緒に考えてみたいと思います。

開催概要

※対面のみ、ネット配信等はありません

開催日時：2026年10月31日（土）15:00-16:30

会場：上智大学四谷キャンパス 6号館4F 408教室

対象：日本語・言語教育全般に関心のある教員、
学生および一般の方（学外からの参加も歓迎）

参加方法：事前申込不要・参加費無料

講師経歴

山田智久（やまだともひさ）

西南学院大学外国語学部 教授・言語教育センター長

ロンドン大学教育研究所より修士（MA in Modern Foreign Languages in Education）、北海道大学より博士（学術）を取得。ロンドン大学東洋アフリカ学院ランゲージセンター、佐賀大学留学生センター、北海道大学高等教育推進機構を経て2021年より現職。研究領域は教育工学と教師教育。特に、教師がICTやAIを使用する際の意思決定モデルについて研究を進めている。

研究活動の傍ら、日本語教師のICTリテラシー向上を目指した講演・研修活動も積極的に推進。北海道大学では2014～2018年まで5年連続でエクセレント・ティーチャーズに選出。主な著書に『ICTの活用（第二版）（単著）』、『日本語教材研究の視点（分担執筆）』、『日本語教師のためのアクティブ・ラーニング（共著）』、『オンライン授業を考える（編著）』、『AIで言語教育は終わるのか？（分担執筆）』等がある。

ラグビーと登山が大好きな生粋の道産子。

主催：上智大学言語教育研究センター

【お問い合わせ】 E-mail: info_cler@sophia.ac.jp